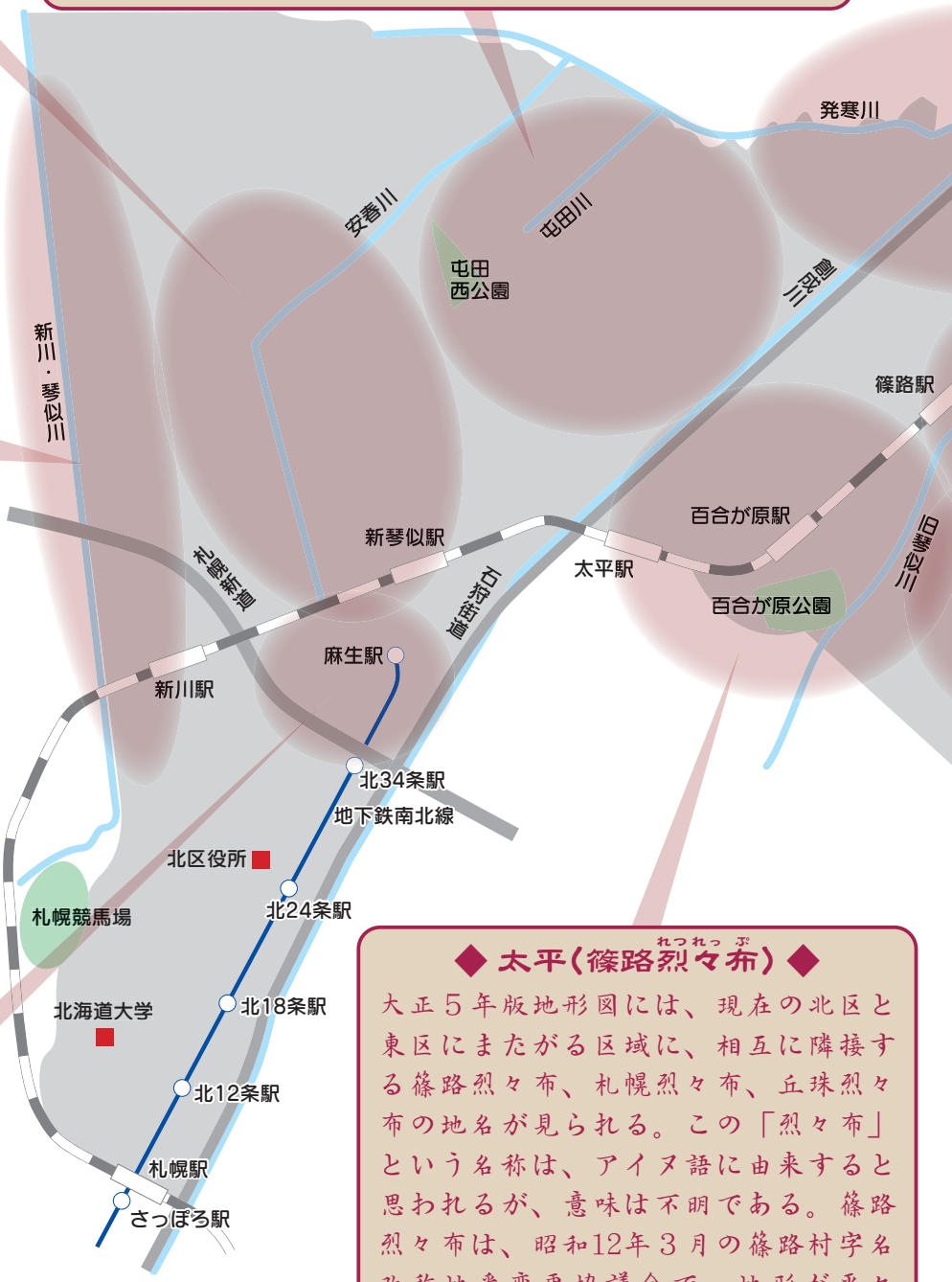
◆ 新琴似 ◆

新琴似は、明治20年に琴似村内の未開拓地に創設された屯田兵村の名称で、琴似屯田兵村と区別するため「新」の字が冠された。「琴似」はアイヌ語の「コッ・ネイ」で、「低くくぼんでいる所」の意味である。昭和30年に札幌市と合併した後も昔ながらの「字新琴似」であったが、33年に地元住民から字名変更を要望する請願が出され、翌34年4月から「新琴似町」と改められた。

◆ 屯田 ◆

この地には、明治22年7月、徳島、熊本、福岡、山口、和歌山、福井、石川の7県から屯田兵が入植し、篠路屯田兵村が形作られた。当初は札幌村外四カ村戸長役場の管轄だったが、29年には篠路村に編入され、さらに10年後の39年4月には兵村地域のみが琴似村に移管された。昭和30年には琴似町と札幌市が合併し、「札幌市屯田町」となり、誇り高い兵村の名残を町名にとどめることとなった。札幌広しといえども、正式な町名として「屯田」を称するのは、ここのみである。



◆ 新川 ◆

札幌競馬場裏から一直線に石狩湾に注ぐ「新川」は、明治20年に完成した人工の運河。新川とは本来、人の手で作った新しい川の意味であるが、それがそのまま川の名称となり、やがてその川に沿った帯状の地域を新川と呼ぶようになった。

◆ 麻生 ◆

「あざぶ」と読む人が意外に多いが、「あさぶ」が正式呼称である。かつて、この地域の大部分が帝国製麻琴似製線工場だったが、化学繊維の進出に押されて昭和32年末に工場が閉鎖し、宅地化が始まることとなる。その翌年、「長い歴史をもつ亜麻事業の発祥地であることを将来に伝えたいので、工場跡地を麻生町と改称してほしい」という地元住民の要望が市議会に寄せられ、昭和34年4月から「麻生町」の町名が実施された。

◆ 太平（篠路烈々布（れつれっぷ））◆

大正5年版地形図には、現在の北区と東区にまたがる区域に、相互に隣接する篠路烈々布、札幌烈々布、丘珠烈々布の地名が見られる。この「烈々布」という名称は、アイヌ語に由来すると思われるが、意味は不明である。篠路烈々布は、昭和12年3月の篠路村字名改称地番変更協議会で、地形が平々坦々としている土地柄であることと、今後太く大きく平和に発展することを願って決議され、「太平」となったといわれる。また、一説には、太平洋にあやかって「大きく広く、かつ共同と協調」を願ったものともいわれる。